



予防医療について



国保成東病院
副院長(外科)
佐藤 治夫 医師

変化 に伴い、私たちの生活環境や生活習慣も大きく変化し、それに伴つて日本人が罹患する病気も変化しています。脳卒中に代わって心臓病が増加し、胃癌は相変わらず多いものの、大腸癌、肺癌が増えています。現在、日本人の死因の7割近くが癌、心臓病、脳血管疾患の3大生活習慣病で占められています。生活習慣病は自覚症状の現れるのが遅いため、初期には病気特有の症状が少ない。そのため人間ドック、健診を受診しない限り発見できないことが多い。これが人間ドック、健診が必要な理由です。

予防医療 という言葉は聴きなれないと思います。現在では病気の治療が主に行われています。しかし病気を予防することも医療の大切な一面です。食生活のバランスや生活習慣の改善等で病気の発症を予防することを一次予防と言います。たとえば生活習慣を改善し将来的に高血圧にならない方法をとることです。また、病気があつても早期のうちに本人の気づかない段階で見つけ出し病気を未然に防ぐことを二次予防と言います。たとえば自覚症状のない早期胃癌を見つけ早期に治療することです。

が加わりますと動脈硬化が促進され、3大生活習慣病の心臓病や脳血管障害の原因となります。まさに国は生活習慣病の予防対策を推進しているのです。

これらを踏まえ

成東 病院

でも人間ドックに力を入れ、忙しい人でも利用しやすいように一日ドックを追加しました。脳ドック(脳検査)については最新式の3テスラMRIで検査を行なっています。癌検査もオプションで選べるようになります。また、胃の内視鏡検査(胃カメラ)については、鼻からの内視鏡(経鼻内視鏡)で行っています。(口からの内視鏡もお選びいただけます)経鼻内視鏡は約5mmの細さで検査中の苦痛が少なく、のどに触れることもないので、不快感や吐き気をほとんど感じずに検査を受けることができます。口からの内視鏡検査が苦手な方などには、是非お勧めします。

健康は大きな財産、予防こそ最高の治療とも言われています。今後は予防医療が大きな割合を占めるようになるでしょう。

[Q] ひきつけはどんな状態?

[A] 赤ちゃんや幼児のひきつけのほとんどは、あまり心配のない熱性けいれんです。38度以上の高熱時などに起こりやすく数分で治まります。あわてず落ち着いて、まずけいれんの始まった時間を確認してください。

静かに寝かせて衣類をゆるめ、首の後ろにたたんだタオルを入れ、頭を後ろにそらせ気道を確保。顔を横に向け、熱を測り、様子を見る。

熱の有無やけいれんの持続時間、けいれんの様子を確認し、落ち着いたら、小児科を受診しましょう。

[やつてはダメ!!]

[口の中に入れない!]

[こんなひきつけ時は119番]

[生後6ヶ月以内・熱がない片側だけ・10分以上づづく]

治まった後意識がない・何度も繰り返す
・(千葉県小児科医会発行の子どもの急病ガイドブック参照)

シリーズ No.13

地域医療Q&A

市民の皆さんからいただいた地域医療、救急医療についての質問を、シリーズでお知らせしています。

問合せ 国保成東病院地域医療連携室

☎ (82) 2521

健康支援課保健予防係
☎ 0479(80)8383

世の中の進歩と

ためメタボリックシンドロームの改善に注目したわけです。肥満に糖尿病、高血圧、脂質異常症(高脂血症)